

# Airon Marine Amx 34

日本1号艇が初上陸するAiron Amx 34。エクステリアやインテリアは、最高級の素材を使用しカスタマイズ。イタリアンアートな美しいエクスプレスを一足先にコモ湖でインプレッションする。



photo: ハウンツ text: Yoshinari Furuya



フロントウィンドシールドの下に敷かれたチークを上を開けると、中には折りたたまれたビミニトップ。電動で展開するスマートなギミックも芸術的。



ステッチがアクセントのファブリックが巻かれたコンソールはリクス。ヴィンテージテイストなメタリックのハンドルや、ル・コルビジエのシューズロング「LC4」を連想させるパッセンジャーシート。全てが、アートフルだ。



スイムプラットフォームからコックピットにつながるフラットデッキ。境目は、ステンレスパイプのドアだけ。フラットなデッキ全面を天然チークが覆い、パウデッキへつながるステップにも分厚い無垢のチークが贅沢に使われている。



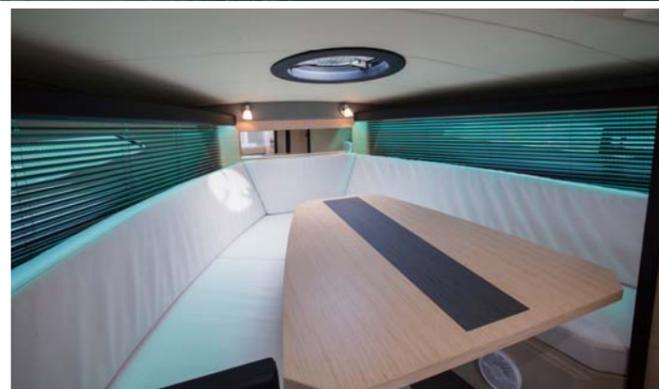
デッキ中央には、ソファの背もたれを兼ねた大型のキャビネット。前面にフロントローディングのリフレジレーター。上部を開けると、シンクと電気コンロ、カッティングボードが現れる。



デッキ後方には向かい合わせに4人がゆったりと座ることができるダイニングソファ。テーブルは電動で昇降、クッションを乗せればサンベッドとなる。



アイロンマリン・ネットワーク・オブ・ジャパン 関東地区:ハウন্ツ TEL 045-778-1532 中部地区:ラヴァンスマリン TEL 090-1728-4728 関西地区:グレートカンパニー TEL 06-4701-8888 沖縄地区:オーシャンズポートセールズ TEL 098-975-5038



ステップを下がると、すぐにパウバース。センターテーブルの上げ下げにより、ダブルベッドとV字ソファをチェンジ。左右の壁全面が大型ウィンドウに覆われている。ブラインドを開けると明るく光に包まれる。



高目のシューズロングにすることで生まれたヘッドクリアランスを生かしたゆとりのエントリー。3台のシングルベッドが並ぶトリプルのゲストルーム。



イタリアンスタイルのボールとカランもビスポーク。すべてのインテリアやエクステリアには、最高級のパーツやファブリックが使われている。

イタリアらしいカッティングエッジなスタイリングのAmx 34。垂直に切り落とされたノーズ。そのデザインを邪魔しないように、アンカーはノーズより下に固定されている。サイドウィンドウは途中で終わるが、なお後方まで流れるように伸びるフレーム。サイドウィンドウのアウトラインとシアラインは呼応するように海面に向かいカーブし降りていく美しいアンサンプル。コモ湖に生息するという鳥「AIRON」をモチーフにしたロゴにも似た大型シービューウィンドウ。3連に並ぶエンジンルームのエアインテークも力強いデザインで個性的。Airon Marineのアイデンティティをデザインに取り入れたオリジナルティ溢れるサイドビューが美しい。スロットルレバーを握る。標準のボルボD4は、トータル460馬力のパワーで素早く加速し、高効率なボトムデザインが、すぐにプレーニングを始める。ノーズは下がり、フラットなコモ湖を爽快に駆け抜ける。トップスピードは31ノットを記録。トップスピードに近い高速のままスラロームに入る。スタンドライブ特有の俊



キャビン内にもリフレジレーターが備わり、インテリアも全てカスタマイズ可能。

## Airon Marine Amx 34

全長: 10.20 m  
全幅: 3.30 m  
重量: 約 6,000kg  
燃料搭載量: 約 410 ℓ  
水搭載量: 約 150 ℓ  
定員: 10人  
ベッド: 5  
カテゴリ: B  
エンジン: ボルボD4-300×2

敏なレスポンス。適度にバンクしクイックにターン。ハンドルの切り角からイメージした通りの弧を描きターンする。不安にさせる極端な挙動はない。バランスの良いマニューバーは、ドライバーだけでなくソファに座る乗員もリラックス。寛いだまま風や風景を楽しんでいる。この安定したターンは、レスポンスが鈍いわけではない。むしろスピード以上に軽快で、爽快。ファンなフィーリングがいつまでもハンドルを握り続けたくさせる。2020年1月、最新モデルAmx 34の日本1号艇が初上陸することが決まった。この日本に上陸するAmx 34は、300馬力のVolvo Penta D4エンジンを2基搭載したハイパワーモデル。トップスピードは36ノットを記録。さらに、maseのジェネレーターと国産ARG(アンチ・ローリング・ジャイロ)を搭載したスペシャル仕様。軽快な走りだけでなく、揺れの少ない快適なアンカリングやフィッシングが、家族やゲストも楽しめるアクティブなボートライフをかなえてくれる。